文京学院大学研究紀要 Vol.3, No.1, pp.101～140, 2001

より良い英語教育に向けての取り組みII

―3歳児への英語教育を始めるに至るまで―

文京学院大学文京幼稚園*

橋本　容子　　奥村　幸子　　益田　薫子　　小島加奈惠
安野麻奈加　　宮城　紀子　　大勝　　愛　　武笠　亜紀
大歳　幸子　　渡辺みゆき　　榊原絵梨子
アレン玉井光江

Abstract

It has been more than forty years since English classes were implemented into the regular hours of nursery education at our kindergarten. Children naturally develop their concerns and interests in English through a variety of activities in English classes. We have made every effort to make the best classes by integrating some English activities into daily nursery activities and by studying English ourselves. We also have chosen English Education as a research topic five years ago and have examined its effects. During this period, we have written and published two papers on this topic in this schooljournal.

This paper－the final report on English education at our kindergarten－discusses the importance of introducing English classes to three-year-old classes and reports on how the children took these classes.

Key Words: English Education, Kindergarten, Three-Year-Olds

For the Better English Education in the Kindergarten (II)
—An Attempt to Implement English classes for Three-Year-Olds—

＊Youko Hashimoto and Others
Correspondence Address: Faculty of Human Studies, Bunkyo Gakuin University, 1196 Kamekubo, Oimachi, Iruma-Gun, Saitama 356-8533, Japan.

Accepted October 10, 2001.　　Published December 20, 2001.

はじめに

本園に英語教育が取り入れられるようになって40年以上が経過し，また保育者が園の研究課題として英語と向き合うようになって５年の歳月が流れていった。この間に平成９年度・平成11年度の紀要には，“本園の英語教育の変遷や方法と実践の移り変わり”また“保護者の英語教育に関する意識調査”も行い発表してきた。

今回の研究では，本園の英語教育研究の最終章として「３歳児の英語教育を始めるに至るまで」について，その意義と実践記録をまとめてみたい。

１章では，英語講師の立場から意見を伺う。２章では，“より自然に子どもが英語教育と出会えるためにはどのようにしたらよいか”を園の英語のテーマとして５年間続けたことにより保育者の意識はどのように変化していったのであろうか。３章では，年少組に英語を導入してから現在までの実践記録を事例として記す。年齢が低く集中する時間が短い年少組に英語を導入するには，より保育者との連携が必要となるのではないだろうか。４章では，「保育に連動した英語教育の取り組み」について研究したい。英語が保育の中で突出したものとならないようにするためには，保育者の立場としてどのようなことができるのであろうか。

以上のようなことをまとめ，私たちの英語教育の最終章としたい。

（奥村　幸子）

１．保育活動の一環としての英語教育

教育課程審議会は「幼稚園，小学校，中学校，高等学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善についての答申」（平成10年７月29日）において教育課程の基準改善に関する４つのねらいを明らかにした。そしてその一番目に「豊かな人間性や社会性，国際社会に生きる日本人として自覚を育成すること」をあげ，その内容を以下のように説明している。「国際化の進展に伴い，国際社会の中で日本人として自覚を持ち主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することも極めて重要である。わが国の郷土の歴史や文化・伝統に対する理解を深め，これらを愛する心を育成するとともに，広い視野をもって異文化を理解し国際協調の精神を培うことは，これからの学校教育において一層重視する必要がある」。このような考え方は来年度より正式に公立小学校に導入される「総合的な学習の時間」の中での英語活動の実施，また中学校の英語を必修科目とすることなどに現れている。

世界全体の流れを見ると第二次世界大戦後，文化の違いを乗り越えた人間相互理解，国際理解の必要性が唱えられ，自国以外の人々とコミュニケーションがとれる程度の言語能力を養う

ことの重要性が認識されてきた。1966年にハンブルグで行われたユネスコ主催の国際会議では「早期外国語教育は『贅沢な教育』・『エリート教育』などでなく，国によっては緊急な必要性のある問題である」とされ，その教育は一時的なFASHIONなどではなく初等教育において真剣に取り組むべきことであると指摘している。

このように小学校以降での外国語教育の必要性は早くから指摘され，日本においてもやっと実現されるようであるが，幼児を取り巻く外国語教育の現状はどのようなものであろうか。ある幼児用教材会社の調べによると園の活動として英語を導入している幼稚園の割合は全体の６％にあたる15,000強である。大阪府狭山市においては英語の幼少一貫教育を13年度より開始し，これで同市にある保育所，幼稚園から小学校において８年間の一貫した英語教育が行われることになる。このような自治体の動きと共に，民間の英語教室に通う幼児の数は10年前と比べると明らかに増加している。また前述の公立小学校における英語活動の実施，そしてこれからの社会情勢などから幼稚園教育においても英語指導が園の区別化の動きとともにこれから拡大していくのではないかと想像する。

私は文京幼稚園において10年間英語講師として園の教育に関わってきたが，その間「英語を学ぶことは子どもたちの生きる力となる」という信念をどうすれば実際の教室の中で実現できるか研究かつ実践してきた。ここでは私が理想とする幼稚園での英語活動を展開するためにいかに担任教諭との連携が大切であるかについて簡単に私見を述べることにする。

幼稚園教育の基本は「環境を通して行う教育」であるが，30名クラスを週１回20分ずつ教えるだけでは子どもたちの園生活を理解することは難しい。他の保育活動と遮断された英語活動とならないように過去８年間いろいろな試みをしてきた。その結果，担任教諭とのチームティーチングが理想的な授業形態であると確信し，２年前よりそれを実行している。英語の時間には，英語講師である私と担任教諭が英語活動を進めている。この形態を導入したことにより日常保育と連動した英語活動をすることが可能になり，また何よりも英語講師である私と子どもたちの信頼関係を築くことがより簡単になった。幼稚園の先生方が初めて登園してくる子どもたちとの信頼関係をその子どもと親（特に母親）との信頼関係の延長線上に築かれように，私は担任教諭と子どもたちが築いている信頼関係の延長線上に私と子どもとの関係を築いていった。幼稚園にいる時子どもたちにとって一番大切な大人である学級担任としっかりした信頼関係を作ることでたった20分ではあるが，英語の時間を不安に思う子どもが少なくなり，反対にわからなくても英語を聞くことを楽しむ子どもが増えてきた。

次に子どもが自ら学び，自ら考え，主体的に関われる授業作りという点から担任教諭との関係作りについて述べる。幼児・児童を対象とした英語教師は授業をする際，豊かな人間性を育てるような授業を行いたいと考えるが，同時に言語教師という役割から読み，書き，話し，聞くという技能が向上するようにプランを立てる。20分と言えども子どもが活動に主体的に関わることができ，また遊びを通して学習することができるように担任教諭と力を合わせている。担任教諭と密接な関わりを築くことができれば，英語の活動で行うことを前後の保育時間で実

施してもらい，そこから子どもたちは十分に遊びの要素を感じることが可能になる。例えば英語で読んだ本に出てきた登場人物を英語で理解してほしいと考え「フルーツバスケット」というゲームを使って授業を展開しようと計画したとする。もし，私が英語の時間にゲームのルールを説明するところから始めて，クラス全員の子どもたちがルールを理解しゲームを楽しむまでに持っていくとすると，授業時間の20分はすぐ過ぎてしまうし，その間英語教師であるにもかかわらずほとんど日本語でルール説明をすることになる。そこで担任教諭にこのゲームをあらかじめ保育時間の中で，日本語でやってもらうように依頼しておく。そうすると英語の時間に「この前みんながやったお引っ越しゲームを今日は英語でやってみましょう」の一言で活動に入ることができる。子どもたちもゲーム自体は理解しているので安心して英語の指示を聞き，ゲームを楽しむことができるわけである。

担任教諭の主体的な関わりが必要となるチームティーチングを導入することによって，今までにない英語活動を展開することが可能になり，保育時間内に行われる英語活動の意義を改めて感じている。

（アレン玉井光江）

2．保育者のための「英語研修」の実践

本園での英語教育は，子どもたちが園生活の流れの中で，自然な形で楽しく英語に触れていくことを目指している。英語教育をより有効にしていくためにも，保育の中で英語の時間だけが遊離することなく，子どもたちと常に関わっている保育者が日常生活の中でも英語を使えるようになることが望ましい。そのために英語講師の指導のもと，保育の中でも英語を取り入れることができる保育者を目指して，英語研修会をもち勉強していくこととした。

具体的な内容は次の通りであるが，詳細を以下に述べる（表１参照）。

目標：保育者が英語に対する興味を深め，楽しめるように
1）子どもが習得している英単語
2）子どもが歌っている英語の歌
3）子どもが聞いている Classroom English
4）発音を中心とした英語力全体の向上

参加メンバー：英語講師１人／職員10～13人

期間　　：平成９年４月～現在も継続中である。

回数　　：月に１回の割合。年間を通して８～10回

幼稚園で以下の行事がある月は，研修会を休みとしている。

７月－お泊まり保育

８月－夏休み

10月－運動会

２月－子ども劇場

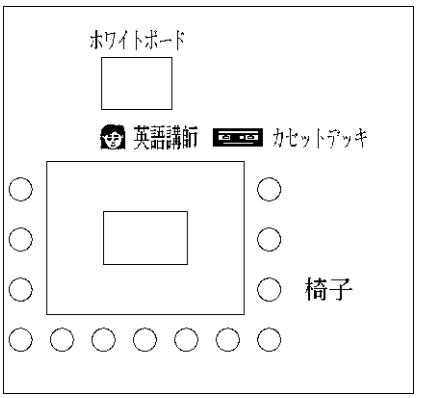
場所：保育室を使用

英語のレッスンと同じように，ホワイトボードとカセットデッキを用意する。

曜日：水曜日の午後　・本園では水曜日が午前保育となっているので，保育者が午後の時間帯を比較的余裕をもって使うことができる

時間：１時間　　・開始時間は英語講師と相談して決めているので，双方のスケジュールにより毎年，多少変化している。

※夏季，冬季，春季の休みに入った場合は午前中に行なっている。



形式：・はじめに英語講師作成によるプリントが配布されプリントに基づいて進められる。保育者は英語講師の発音の後に続いて，同じように発音してみる。

表 1　英語研修会日程表

	平成 9 年度 1997年 4 月～ 1998年 3 月		平成10年度 1998年 4 月～ 1999年 3 月		平成11年度 1999年 4 月～ 2000年 3 月		平成12年度 2000年 4 月～ 2001年 3 月	
4 月	※ 4/23（水）	13:30～ 14:30	4/22（水）	14:00～ 15:30	4/21（水）	15:30～ 16:30	4/19（水）	16:30～ 17:30
5 月	※ 5/21（水）	13:30～ 14:30	5/20（水）	15:00～ 16:30	※ 5/26（水）	15:30～ 16:30	5/31（水）	15:00～ 16:30
6 月	※ 6/18（水）	13:30～ 14:30	6/24（水）	15:00～ 16:30	6/23（水）	15:30～ 16:30	6/21（水）	15:00～ 16:30
7 月			7/14（水）	13:30～ 15:30			7/19（水）	15:00～ 16:30
8 月								
9 月	※ 9/17（水）	13:30～ 14:30	9/9（水）	14:30～ 15:30	9/22（水）	15:30～ 16:30	9/20（水）	15:00～ 16:30
10月								
11月	※ 11/5（水）	13:30～ 14:30	11/25（水）	14:00～ 15:30	11/10（水）	15:30～ 16:30	11/22（水）	15:00～ 16:30
12月	12/3（水）	13:30～ 14:30	12/17（水）	14:00～ 15:30	12/15（水）	15:30～ 16:30	12/20（水）	10:00～ 12:00
1 月	1/14（水）	13:30～ 14:30	1/20（水）	14:00～ 15:30	1/27（水）	14:30～ 15:30	1/22（水）	15:00～ 16:30
2 月								
3 月	3/18（水）	10:30～ 11:30	3/19（金）	10:30～ 11:30	3/18（土）	10:30～ 11:30	3/21（水）	12:00～ 14:00

【研修内容の概要】

《平成９年４月23日（水）13：30～14：30》［表１※印参照］

１．動物単語（20） ２．歌：Little Peter Rabbit ３．Classroom English ①挨拶 ②天候 ③ほかの表現 ４．母音と子音について

《平成９年５月21日（水）13：30～14：30》

１．４月の復習 ２．発音（子音，母音，子音連続） ３．挨拶 ４．自己紹介 ５．体の部位（20）

《平成９年６月18日（水）13：30～14：30》

１．今月の歌：I’m a little tea pot ２．Story telling : The farmer and the beet ３．体の部位の復習 ４．Dictation:InterviewerとMr.Brown

《平成９年９月17日（水）13：30～14：30》

１．今月の歌：In a cabin ２．Big Book Reading : The Three Little Pigs 大型絵本の読み聞かせ　（３匹の子豚） ３．10／31のハロウィーンについて

《平成９年11月５日（水）13：30～14：30》

１．歌：職員が２人１組になって，次の歌の中から１曲を練習し全員の前で披露する。	①In a cabin ②Baa,baa black sheep ③Pease Porridge Hot ④Inchy Winshy Spider ⑤I’m a Little Tea Pot
２．遊び歌	①Head and shoulder （体のそれぞれの部分を教える代表的な歌） ②Two little black birds （英語のリズムを教える時に使うマザーグースの歌） ③Three little monkeys （リズムをとりながら指遊びをして覚えていく歌） ④Where is father?

以上，平成９年度英語研修会の中から５回の研修会の内容［表１※印参照］を述べた。発音を中心とした英語力全体の向上に加え，年中・年長組のカリキュラムに併せてClassroom English の復習・予習も行なっている。

初めに，英語講師の発音を聞き，次に英語講師の後について保育者が発音する。数回練習した後，保育者のみで発音してみる。これは保育者が，子どもたちと同じ状態になって発音したり，歌を歌ったり，ゲームをしたりすることで，子どもの気持ちに少しでも近付くことができ，子どもの気持ちを理解するうえに役立つと考える。

実際に体験してみると，保育者自身も２通りの気持ちを経験することになるようである。一つは，英語の楽しさ，おもしろさを感じることができる。２つめは，それと反対に英語の意味が理解できずに，皆と一緒に声を出して発音することに緊張してしまうようなことも経験する。このような経験を通して，保育者自身が理解できなかった点を英語講師に伝え質問し，再度詳しく，発音の速度を遅くして進めてもらっている。その他にも，絵の画面がわかりにくかったり，テープの音が聞こえにくかったりする時も，そのつど伝えるようにしている。

研修を始める前は，保育者の中で英語が得意・不得意などの意識の差があり，全保育者が足並みを揃えて研修を行うことは難しいのではないかと思われた。しかし，予想と反して，無理なく英語に対する興味を深め，楽しんで参加するという良い結果となった。これは，英語講師の研修の進め方への配慮によるところが大きい。

例えば，研修の中で発音する場合や歌を歌う際にも，一人ずつ順番に発音していくとなると英語不得意の保育者には余計に負担になったと思われるが，参加者全員で発音することになっていたので，気楽に声を出すことができた。

平成９年11月５日の研修では，「５曲の英語の歌を手遊びも交えて披露する」という課題があたえられた。２人で１組になり５曲の中から１曲を選び出し，お互いに協力して歌うため安心して取り組むことができた。童心にかえって子どもの気持ちを味わえた一瞬であった。

平成９年度英語研修を始めた当初，いつまで，どのように続けていったらよいのか見通しがたたず，１年間という期間をきめて英語講師に依頼したが，１年にとどまらず次のような理由から現在も継続している。

①常にカリキュラムに即した授業内容を知ることによって，援助がスムーズにできること

②毎年，各学年の担任が変わっていること。

③各年度に新人保育者が入ってきていること。

英語研修を4年間続ける中で，研修の内容も各年度に併せ変化している。

《平成11年5月26日（水）13：30～14：30》［表1 ※印参照］

◎年中クラス

1．Greeting（挨拶）［どこの国においてもGreetingによるコミュニケーションが第一歩であることを知る］ 2．歌：　・ABC song 　・Frog family 　・Rain 3．単語：　・Numbers, 1～5 　・Colors, 4色 4．Let's go outside:　［園庭に出ていろいろな遊具をみていく］ 5．Story:　・本「Blue hat, green hat」

◎年長クラス

1．Greeting（挨拶） 2．歌：　・Pat-a-ca 　・Hampty Dumpty 3．TPR:・Shake Touch 　・The farmer and the beet に沿って 4．Rhyme:［韻をふむ］ 5．Game:　［お引っ越しゲーム］

初期の頃は，発音を中心とした英語力全体の向上を目指して研修会を進めていった。“1時間”という制約の中で，より実践的なものを目指す必要性から“Classroom English”の予習・復習を中心に行っていくように，内容が徐々に変化していった。

“Classroom English”の復習内容は，保育者も子どもたちと一緒に参加した1ヶ月前の英語の授業内容である。実際に子どもたちと体験しているので，わかりずらかったところを積極的に質問するなど，保育者自身の中に理解しようとする姿が見られるようになった。そして授業での子どもたちの様子や状況を話し合うことで，より良い改善策を英語講師と共に考えていこうとする面も見られるようになった。初期の頃は保育者も手探りの状態であり，受け身の立場で聞くことばかりに終始する傾向であったが，回を重ねるごとに積極性が見られるようになってきた。

☆質問には以下のようなものがある。

①　“Greeting”のところからの質問 “How are you ?”と英語講師が挨拶すると，子どもたちは同じように “How are you ?”と挨拶してしまう。 何故，初めから“How are you ?”の意味を子どもたちに伝えないのですか。 “ごきげんいかが”の意味を，初めから子どもたちに教えていった方がよいのではないのでしょうか。

☆英語講師からの答え

あえて初めから意味は言わずに，“How are you ?”を何度も発音していく中で，子どもたちに自然に理解してもらえばよい。 しばらくは同じように模倣していても，時が経つにつれて自然に “How are you ?”と言われたら，“I'm fine, And you ?”と言えるようになるので，その時期をゆっくり待っていきたい。つまり，コミュニケーションをしていく中で子どもたちが雰囲気を感じ始め，最初はわからなくても徐々に理解できるようになるのです。

平成10年度以前は，年中・年長組の子どもたちは英語の授業を受けていたが，年少組は時期が早いということで導入されていなかったのである。よって，研修の中でも年少組の保育者は，年中・年長組の保育者に比べると英語の授業内容を具体的に捉えることができずにいた。

しかし，年少組も試みとして，平成10年から３学期の１月に導入を始めることとなった。子どもたちの様子を把握しながら徐々にレッスンの回数を増やしてきている。

平成10年［年間２回］	①１／19　②２／26
平成11年［年間４回］	①12／９　②１／20　③２／24　④３／９
平成12年［年間８回］	①10／31　②11／９　③11／30　④12／７ ⑤１／11　⑥２／１　⑦２／22　⑧３／８

そのため年少組の保育者も，英語の授業が具体的に理解できるようになってきた。平成11年度英語研修では年少組の保育者も英語が保育の中に身近なものとなってきたため，英語研修参加も以前よりも有意義なものとして楽しんでいる様子が見られるようになった。

年少組も英語の授業を開始したことで，「子どもたちにとってのより良い英語教育」を各学年に合わせて考えることになり，全職員で共通のものとして英語を捉えることができるようになった。

日頃保育者も，前掲の質問内容のように英語の授業の中で「何故だろう」と疑問に思っていても尋ねる機会もなく，時間が過ぎてしまうということがあった。

英語研修会の場が設けられ復習の機会もあることで，積極的に質問してみようという気持ち

になっていった。保育者も英語講師の考えを知り，十分に納得して英語のレッスンに取り組めるようになったことは，大きな成果である。

☆英語研修の中で，各学年の予習・復習に加え，学期の節目に次のような内容がプラスされる。

4月／1年間の“英語のレッスン”のカリキュラムについての説明を聞く。
　　1学期の“英語のレッスン”の内容の説明を聞く。
7月／2学期の“英語のレッスン”の内容の説明を聞く。
12月／3学期の“英語のレッスン”の内容の説明を聞く。
3月／1年間のまとめとしての反省会を行う。
　　来年度に向けての話し合い。
　　①来年度に向けての日程・曜日・時間を話し合う。
　　②来年度の各学年の新担任と打ち合わせをする。

☆1時間の英語研修を終了すると，“ティータイム”の時間をとっている。“ティータイム”の時間を利用して，英語講師に各クラスの子どもの様子を話したりする時間にもあてている。1時間の貴重な英語研修の成果が保育者の自信へと繋がり，毎日の保育の中で子どもたちに楽しめる英語を実践し，さらに自然に英語が生きていく環境作りを，これからも目指していきたい。

（奥村　幸子）

3．3歳児（年少組）への英語教育導入

⑴本園の英語教育導入時期の変遷

本園において，保育活動の中に英語教育が取り入れられるようになったのは，昭和30年代前半である。当時はめずらしかったと思われるが，昭和29年に開園し，その数年後に英語教育をスタートさせていたのである（この変遷については紀要人間学部創刊号を参照のこと）。残念ながら，その頃の資料は園に残されていないのであるが，当時を知る英語指導者に話を伺ったところ，英語教育は初年度から年中組より行われていたことがわかった。開園当初から3年保育を行なってきたが，英語教育については4歳児から始めるのが妥当とされていたようである。平成3年からは，現在も引き続き年長組で英語指導を行っているアレン玉井光江先生が講師となり保育者と連携して授業が進められるようになった。年々話し合いも密になり，様々な試みが行われ現在に至っているのである。ここで英語教育の開始時期について，10年間の変遷を述べることとする。

①平成8年度まで～年中組10月開始～

本園の英語教育は初期（昭和30年代）の頃から年長組が中心であり，年中組はその準備段階の時期と考えられてきた。平成8年度まで英語の授業を開始するのは，年中組の10月となって

いた。それは以下のような理由からである。

本園では，１学年の90％以上の園児が３年保育（年少組）より入園し，次年度２年保育（年中組）に進級する。年中組の進級当初は，園生活を１年経験してきた園児が大半であるが，クラス替えにより，学級内は落ち着きのない様子が見られる。園児も，またクラスをまとめていく保育者も軌道に乗るまでは時間を要する。これは，担任保育者や友だち関係の変化，また保育室の環境変化によるものである。毎年１学期は，同じような状況であるため，年中児にとって「英語の授業」という新しい活動を導入するのは２学期が妥当であると考えられていたのである。また２学期は，年間で最も大きな行事である運動会が10月初旬に行われるため，その終了後に英語の授業を開始していた。

②平成９年度より～年中組５月開始～

英語の授業は，講師もアレン玉井先生を中心としてチームティーチングの形式となり，授業内容に関して保育者との話し合いや協力体制が多く取られることで，年を重ねるごとにより密度の高いものとなっていった。

さらに平成９年４月からは，園全体の研究テーマを「英語教育」に定め，２章で述べたように保育者も勉強する機会を設けてきた。このような状況から，英語の授業の開始時期をそれまでの10月から５月にする試みを行ったのである。平成８年度までの，園内の常識としては，画期的なことであった。

最初は，園児が椅子に座っていることができず，授業が成り立つだろうかと懸念されたが，園児は自然に受け止め，授業を楽しむ姿が多く見られた。その様子により，子どもが英語を無理なく楽しめることを一番のねらいとした試みは定着した。

③平成10年度より～年少組への導入～

年中組の授業が半年間からほぼ１年間に移行してきたところで，研究のテーマとして考えられたのは年少組の子どもと英語の関わりについてであった。英語教育の開始を次々と早めていくといった意味ではなく，進級時年中組で英語講師との出会いや授業に期待感の持てるようにとのねらいから新たな試みを行うこととした。次に詳しく述べてみたい。

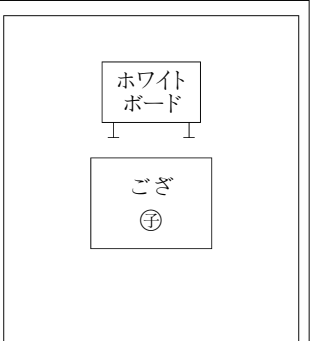
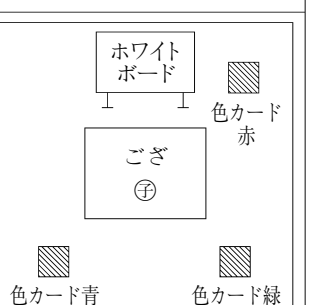
（益田　薫子）

⑵平成10年度年少組

平成10年度は前項に記載した変遷により，年少組にも英語の時間を３学期に２回設けることとなった。なお，平成10年度年少組の在籍数は以下の通りである。

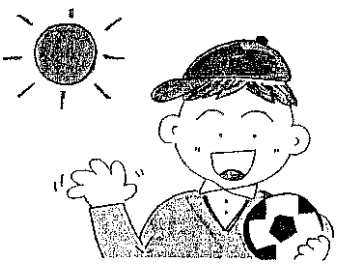
	りす	ことり	うさぎ	合計
園児数	21	21	21	63
保育者数	2	2	2	6

第１回：平成11年１月19日（火） ９：50～10：00　うさぎ組
10：05～10：15　ことり組
11：20～11：30　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	英語講師の自己紹介 Good morning My name is Mrs.～ 挨拶 Hello Good morning Good afternoon Good evening Good night	“Hello” と元気に保育室に入室。 鳥の大きな指人形を使い,「お友達を連れてきたよ」と興味を持たせる。 絵カードを見せながらいろいろな挨拶があることを伝え，指人形が挨拶をする。「一緒に言ってみよう」と声をかける。 ※１	
2	歌 ♪Good morning to you ※２	♪Happy birthdayのメロディーに合わせて歌う	
3	色 赤・青・緑	色のカードと，おもちゃのバナナ・りんご・ピーマン・ドラえもんを見せ，クイズ形式でそれぞれの色を英語で確認する。 ※３	
4	運動的な遊び stand up walk stop hop tip toe sit down	大きな色カードを保育室の３ヵ所に置き，小さな色カードを見せながら “Walk to the red card.”“Hop to the blue card.” などの指示を出す。 ※４	
5	挨拶 Good bye	「最後の挨拶は英語でしようね」と声をかける。	

※1　Good morning：ベッドから起き上がる絵「朝起きたとき」と補足

Good afternoon：

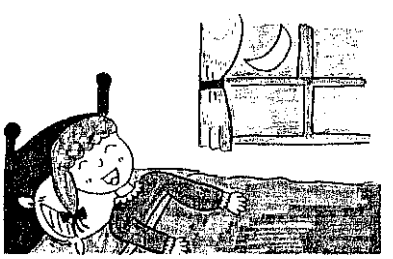


「お弁当を食べるころ」と補足

Good eveninig：

「お家へ帰って外が暗くなったら」と補足

Good night：



「夜寝る時」と補足

※2　♪Good morning to you
Good morning to you
Good afternoon to you
Good eveninig to you
Good night to you

※3　色カード：B5サイズの色カードと，直径15cm程度の円形の色カードそれぞれ3色ずつ

提示の仕方：りんごを見せ「何色？」“Green?”と緑の色カードを見せながら子どもたちに尋ねる。「違う」との答えに“NO,NO,NO.”と同調し，同じように“Blue?”“NO,NO,NO.”と繰り返す。“Red?”「そう，そう」との答えに“Yes!”と正解であることを伝え，りんごの色は“Red”であることを確認する。
ピーマン，ドラえもんでも同様に行う。

※4　動作の指示語は英語の後に日本語で補足を行う。

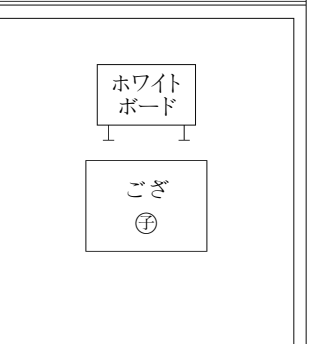
Stand up：立ってみよう
Hop：うさぎさん
Walk：歩くよ
Tip toe：こっそり　どろぼうみたいに

・子どもの様子

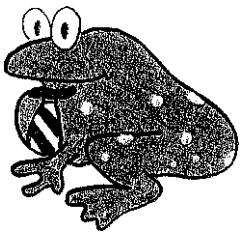
英語講師が保育室に入ってくると，何が始まるのかと，期待と興味を持っている様子がうかがえた。英語講師の英語による問いかけに対し，日本語で元気に答える姿から，言葉を理解しようとするのではなく，英語講師の仕草や，教材から雰囲気で感じとっていることがうかがえた。

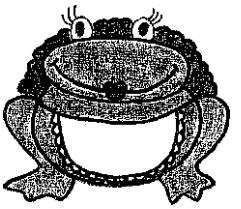
短い単語は大きな声で復唱するが，挨拶の“Good afternoon”“Good evening”は発音しにくいようで，躊躇していた。

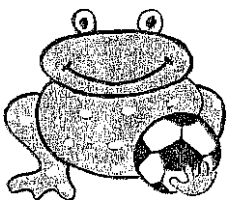
・第２回：平成11年２月26日（金） ９：50～10：00　ことり組
10：05～10：15　うさぎ組
11：20～11：30　りす組

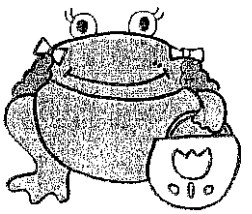
	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning 歌 ♪Good morning to you	“Good morning”と挨拶をし，子どもたちにも促す。 絵カードを用い，歌を歌う。	
2	Frog family Papa frog Mama frog Brother frog Sister frog Baby frog ※１	カエルの鳴き声のテープをかけ，集中させる。 「あっ，カエルだ。Come here. こっちへ来てって呼んでね」 子どもたちにも“Come here”と呼ぶように声をかける。 呼ぶごとにお父さん・お母さん・お兄さん・お姉さん・赤ちゃんのカエルの絵カードが現れ，絵を見せて名称を知らせる。	
3	運動的な遊び Hot Swim Jump	カエルが暑がっている様子を伝える「暑いなぁ，Hot,hot,very hot」 「池に入ろう，Jump,jump,jump」 「気持ちいいなぁ，Swim,swim,swim」動作を付けて子どもたちと一緒に繰り返す。	
4	歌 ♪Frog family(1) ※２	日本語で♪かえるの歌を歌う。 そのメロディーに合わせて，♪Frog family(1)を歌う。 “croak”の鳴き声でジャンプすることを伝え，子どもたちと一緒に歌う。	
5	挨拶 Good bye		

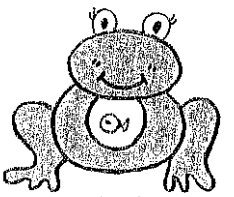
※1


Papa frog


Mama frog


Brother frog


Sister frog


Baby frog

※2　♪Frog family(1)
1、2、3、4、5、
1、2、3、4、5、
Papa，mama，brother，sister，baby
Croak，croak，croak，croak，croak

・子どもの様子

英語講師と会うのは2回目でありながら，親しみを感じているようであった。緊張する様子もなく楽しみながら臨んでおり，中には興奮してふざける子もいた。英語講師が一つの言葉を何度も繰り返してくださったため，子どもたちにもわかりやすかったように思われる。しかしながら，日常の保育の中で，保育者が話している時は最後まで聞くように指導しているため，「先生の真似をしてね」などの指示がないと，復唱していいものか，戸惑う様子も見られた。

初めての試みであった年少組の英語は，2回とも子どもたちにとって，無理なく楽しめるものとなった。

（小島　加奈惠）

⑶平成11年度年少組

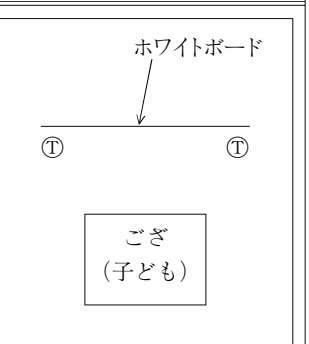
当初の様子

平成10年度に試行された３学期の英語の時間（２回）を経て，平成11年度ではさらにその時間を増やすことを検討した。２学期の１回と，３学期の３回，計４回である。

なお，平成11年度年少組の在籍数は以下の通りである。

	りす	ことり	うさぎ	合計
園児数	22	21	21	64
保育者数	2	2	2	6

第１回：平成11年12月９日（木）９：55～10：05　うさぎ組
10：10～10：20　ことり組
11：15～11：25　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	英語講師の自己紹介 Good morning My name is Mrs.～ 天気 It is cold 挨拶 Hello Good morning Good night	“Hello”と元気に保育室に入室。 身振りを付け「今日は寒いね」と日本語と英語で声をかける。 絵カードを見せながらいろいろな挨拶があることを伝え,「一緒に言ってみよう」と声をかける。 ※１	
2	歌（家族・数） ♪１・２・３・４・５ ※２	カエルの家族（お父さん，お母さん，お兄さん，お姉さん，赤ちゃん）の絵カードを見せながら♪カエルの歌のメロディーに合わせて歌う。	
3	色 赤・緑・黄色	三角(赤)，四角(緑)，丸(黄色)のカードを見せながら，それぞれの色を英語で確認する。※３	
4	運動的な遊び stand up　sit down walk　tip toe stop hop	「stand up」「sit down」など動作を交えて説明。その場に立ち，英語講師と一緒に身体を動かしてみる。 ※４	
5	挨拶 Good bye　See you	「最後の挨拶は英語でしようね」と声をかける。	

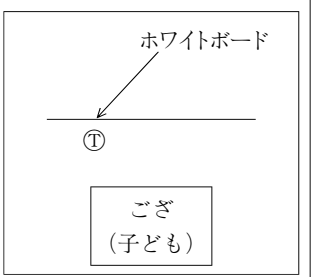
※１　Good morning：ベッドから起き上がる絵「朝起きた時は何て言うかな？」
　　Good night：ベッドに寝ている絵「寝る時は何て言うかな？」
※２♪１・２・３・４・５
　　one two three four five
　　one two three four five
　　father mother brother sister baby
　　good morning good morning good morning
※３　色カード：Ｂ５サイズの三角（赤），四角（緑），丸（黄色）
　　提示の仕方：三角，四角カードを組み合わせた家，太陽に見立てた丸カードがホワイトボードに貼ってある。「お家の屋根は何色かしら？」「何色のお家かしら？」「太陽は何色かしら？」と尋ねながら，子どもたちそれぞれに発言を促す。答えが違う時には「NO,NO,NO.」，正解である時は，「YES,YES,YES.」と伝える。
※４　動作の指示語は，英語の後に日本語で補足する。
　　Stand up：立ってみよう
　　Sit down：座ってみよう
　　Hop：うさぎさん
　　Walk：歩くよ
　　Tip toe：こっそり　どろぼうみたいに

・子どもの様子

初めて会う先生，初めて経験する英語ということから，緊張を示す子どもが多かった。しかし，英語講師が保育室に入室すると一斉に静かになり，話していることに耳を傾けよく集中していた。すでに，英語での色や数を知っている子どももおり，カードを見ながら色を確認している際には，「Red」はもちろんのこと「Green」や「Yellow」も答えていた。

英語での質問に対してどのくらい理解しているかということに関しては定かではないが，英語講師の仕草や，用意された教材，日本語での補足で十分に楽しめていることがわかる。英語の時間終了時には，「see you」「good bye」などと，元気に手を振っていた。

第２回：平成12年１月20日（木）　９：50～10：00　ことり組
　　10：05～10：15　りす組
　　11：20～11：30　うさぎ組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	英語講師の自己紹介 Good morning My name is Mrs.～ 天気 It is cold 挨拶 Hello How are you? I'm fine and you	“Hello” と元気に保育室に入室。 “Good morning” と挨拶をし，子どもたちにも促す。 身振りを付け「今日は寒いね」と日本語と英語で声をかける。 「元気？」「私，元気よ」って英語でこう言うのよ，と日本語で補足しながら一緒に言ってみるよう促す。	
2	歌（家族・数） １♪Good morning ２♪One little finger ３♪Frog family ※１	１．絵カードを見せながら歌う。 ２．指をたたいたり，速度を速めたりしながら歌う。 ３．カエルの家族（お父さん，お母さん，お兄さん，お姉さん，赤ちゃん）の絵カードを見せながら♪カエルの歌のメロディーに合わせて歌う。	
3	色・動作・形 緑（青）：go 黄色：be carful 赤：stop circle	赤，緑，黄色の円形のカードを信号に見立てて，それぞれの色，意味，カードの形を英語で確認する。 ※２	
4	運動的な遊び stand up　sit down walk　tip toe stop hop	「stand up」「sit down」など動作を交えて説明。その場に立ち，英語講師と一緒に身体を動かしてみる。	
5	挨拶 Good bye　See you	「最後の挨拶は英語でしようね」と声をかける。	

※１♪Good morning to you
Good morning to you
Good afternoon to you
Good evening to you
Good night to you

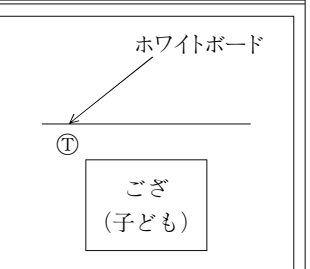
※２　色カード：直径15cm程の緑，黄色，赤色のカード
提示の仕方：信号に見立ててホワイトボードに貼っておく
「What color?」と英語で質問した後に日本語で「何色」と補足を入れる。それぞれの色が確認できたら，それぞれの色が示す意味を日本語で尋ねる。子どもたちからは，日本語で答えが出るが，それを英語に直しみんなで発音するよう促す。また，日本語では「Go」の意味を「青」と言うが，英語圏（アメリカ）では「Green」すなわち「緑」であることを知らせる。
円形を英語で「Circle」と言うことも知らせてみんなで発音するよう促す。

・子どもの様子

2回目の英語の時間の準備に保育者が取り掛かっている際，子どもたちから「今日も英語？」「英語の先生来るの？」という発言や期待している様子が見られた。前回の英語の時間というものが，子どもたちにとって楽しいものであったことがこれからうかがえる。

集中し，声を出そう，発音してみようと意欲的な姿が前回よりも多く見られる。特に歌や手遊びは，言葉がわからなくとも積極的に声が出ており，子どもにとって英語の時間というものが，楽しく無理のないものとして考えてよいのではないか。

第3回：平成12年2月29日（火） 9：50～10：00　りす組
10：05～10：15　うさぎ組
11：20～11：30　ことり組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	英語講師の自己紹介 Good morning My name is Mrs.～ 天気 It is cold　Sunny and cold 挨拶 Hello How are you? I'm fine and you	“Hello”と元気に保育室に入室。 “Good morning”と挨拶をし，子どもたちにも促す。 身振りを付け「今日は寒いね」と日本語と英語で声をかける。 「晴れてるけど寒いね」と日本語で補足しながら“Sunny　and cold”と声をかける。	
2	歌・その他 ♪Hello　Good bye Hello　Good bye in the woods egg　milk　butter　flower mix ※1	ペープサートのぐりとぐらが登場する。「ぐりとぐらはホットケーキを焼きたいけど，焼き方を忘れちゃったの。みんな教えてあげてくれないかしら？」英語，日本語の両方を交えながら声をかける。ホットケーキに必要な材料を子どもたちに聞きながら，英語に直し一緒に発音する。「みんなのお陰でホットケーキが焼きあがったよ。どうもありがとう」と声をかけ，ぐりとぐらに英語でさよならの挨拶をする。 ※2	
3	挨拶 Good bye　See you	「最後の挨拶は英語でしようね」と声をかける。	

※1 ♪Hello　Good bye

※2　使用したペープサート：Guri（ぐり）
Gura（ぐら）
in the wood（木）
egg（たまご）
milk（牛乳）
butter（バター）
flower（小麦粉）

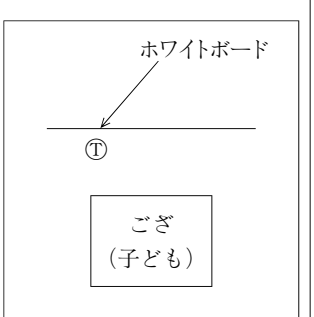
・子どもの様子

子どもたちは，自然と英語の時間を受け入れるようになった。英語講師の名前も覚え親しみを持って挨拶したり，講師の発音に続いて声を出すことにも慣れ，楽しんでいる様子がうかがえた。

今回英語の時間では，２月17日に行われた園の行事，「子ども劇場」で演じた「ぐりとぐら」を題材にしたレッスンを試みた。予想通り子どもたちの反応は良く，発言もより多く出ていた。

英語の時間終了の際，「もう終わりなの？」「もっと!!」と声があがり，残念そうな表情を浮かべる子どもが多かった。

第４回：平成12年３月９日（木）９：50～10：00　うさぎ組
10：05～10：15　ことり組
10：50～11：00　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	英語講師の自己紹介 Good morning My name is Mrs.～ 天気 It is cold 挨拶 Hello How are you? I'm fine and you	“Hello”と元気に保育室に入室。 “Good morning”と挨拶をし，子どもたちにも促す。 身振りを付け「今日は寒いね」と日本語と英語で声をかける。 「やってみようね」と声をかけながら促す。	
2	歌・その他 １♪Hello　Good bye ２Look over there Hello dog Hello cat Hello pig	１．前回使用したペープサートのぐりとぐらを登場させる。“Hello”の時には中央を向いて“Good bye”の時には外側を向いて表現する。「みんなも一緒に歌ってね」と声をかけ促す。 ２．ホワイトボードに草むらの絵が貼ってある。その草むらに何かが隠れているように，ペンで書き込みながら子どもたちに何の動物か発言を促す。注意を引くために“Look over there”と英語で言った後に日本語で補足する。日本語で答えた子どもに対して「英語では何て言うかな？」と声をかける。英語での正解が出ると，その動物に“Hello－”と挨拶をするよう促す。	
3	挨拶 Good bye　See you	「最後の挨拶はもう覚えたかな？」と声をかける。	

・子どもの様子

今日はどんなことをしてくれるのか，興味津々な様子である。英語での挨拶も定着し，返事をしている。マジックで描きながら徐々に姿が現れていく動物に集中し，それぞれ楽しみながら発言している。ほとんどの子どもが日本語での発言ではあるが，数名の子どもは英語で答えており，英語講師がこれらの声を拾い上げ，発言させることでやる気にも繋がっているのではないか。

（安野　麻奈加）

⑷平成12年度年少組

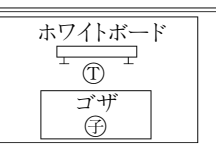
当初の様子

これまで年少組での英語の授業回数は平成10年度が２回，平成11年度が４回であった。この２年間の子どもの様子を踏まえて，平成12年度はさらに回数を増やし，２学期４回，３学期４回…計８回の授業プログラムを計画した。

平成12年度の年少組の在籍数は以下の通りである。

	りす	ことり	うさぎ	合計
園児数	21	21	21	63
保育者数	2	2	2	6

第１回：平成12年10月31日（火）９：40～９：50　うさぎ組
９：55～10：05　りす組
10：45～10：55　ことり組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning	“Hello”と言いながら笑顔で保育室に入室。 ＊Halloweenにちなんで英語講師１名は魔女に変装して登場。	
2	紙芝居 ＊登場：魔女・男の子・女の子・カエル・こうもり アーブラカタブラ１・２・３!! jump! jump! jump! fly! fly! fly!	登場人物（男の子と女の子）が魔法をかけられる場面では英語講師２名がそれぞれ，かえる・こうもりのお面をつけ，その鳴き真似や動きを実際やってみせた。 「一緒に言ってみてね」と声をかける。 「みんなも応援してあげてね！」「もうちょっと!!」と声をかける。	
3	挨拶 Good bye	「もうおしまいだよ！」「最後は英語でご挨拶しようね」と声をかける。	

・子どもの様子

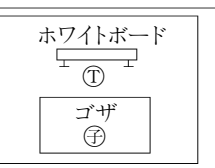
初めての英語，初めて見る英語講師そして魔女に変装した講師に戸惑いながらも，興味を示す様子がうかがえた。また，英語講師から問いかけがある度に，担任の存在・表情を確認し，目で合図を送るとホッとした様子で授業に集中する姿も見られた。

紙芝居の読み聞かせになると，どの子どもも集中して見ることができ，話の内容を絵で理解しながら自然な形で“英語”を取り入れることができた。「アーブラカタブラ１・２・３！」の呪文は聞き慣れないものではあったが，普段の保育でも事あるごとに様々な呪文を唱えて楽しんでいたためか，大きな声を出して参加することができた。

大好きな紙芝居を見るうちに子どもたちはすっかり登場人物に感情移入し，英語講師の声かけに応じて「jump」「fly」の言葉にも自然と力が入り，クラスが一体となって英語を楽しむことができた。

「もう終わり！？」「早すぎる！」という子どもたちの声からもわかるように年少組初めての英語はすべての子どもが無理なく楽しめ，参加できる内容であった。

第２回：平成12年11月９日（木）９：35～９：45　ことり組
９：50～10：00　うさぎ組
10：05～10：15　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning	“Good morning”と挨拶をし，子どもたちにも促す。	
2	Guri & Gura Hello Good bye ※１	軽快なリズムに合わせてぐりとぐらのペープサートを登場させる。「僕たちのこと知ってる？」と質問し，自己紹介する。 ２匹は出会うと“Hello”と挨拶するが，すぐに“Good bye”と別れてしまう。 初は“Hello”“こんにちは”というように日本語訳も知らせる。	
3	運動的な遊び Throw Catch ※２	木の絵を貼ったホワイトボードを見せ，集中させる。そこへ１羽の小鳥が鳴きながら登場。鳴き声への反応が良かったため何度か繰り返し行う。葉っぱを１枚出して“Throw”“Catch”の言葉を，動作を付けて繰り返し見せる。園庭にも落ち葉があることを伝える。	
4	挨拶 Good bye		

※１　出会ったら「Hello」，別れる時は「Good bye」と挨拶することをぐりとぐらのやりとりから繰り返し伝える。「あれっ，もうさようならって帰っちゃったよ」と状況説明を入れることで，子どもたちの内容理解を深める。

※２　“トゥイトゥイトゥイ…”という日本の表現とは異なった小鳥の鳴き声で子どもを引きつける。

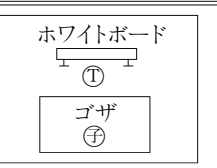
・子どもの様子

英語の授業に際して，普段に比べて多少緊張感が見られるが，期待感を持って臨む様子が見られた。今回は，前回より１名少ない２名の講師による授業であったが，子どもたちは前回より講師が少ないことにすぐ気が付き「もう一人の先生は？」という声が上がっていた。

ぐりとぐらの絵本は内容が少し難しく，保育中読んだことがなかったためか，子どもたちの間では予想以上に知名度が低く英語講師の問いかけに対して「ねずみ！」と答える子どもが圧倒的多数であった。しかし，かわいらしく親しみ溢れるペープサートに子どもたちは集中し，２匹のかけあいを心から楽しんでいる様子であった。

子どもたちにとって，日本での表現とは違う小鳥の鳴き声が新鮮で面白かったようである。授業の後も保育者とともに鳴き真似をして楽しんだ。

第３回：平成12年11月30日（木）９：35～９：45　りす組
９：50～10：00　うさぎ組
10：05～10：15　ことり組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning How are you?	一人の講師が先生役，もう一人の講師が子ども役になり，子どもたちにも「やってみようね」と声をかける。“How are you?” “I'm fine and you?” の意味を日本語で子どもに伝える。	
2	天気 sunny cloudy rainy ♪How's the weather? ※１	天気の絵カードを見せ,「一緒に言ってみてね」と声をかけてから発音していく。「今日はどんな天気かな？」と尋ね sunny であることを確認する。 Sunnyの言葉と身振りを強調しながら歌う。	
3	運動的な遊び Jump Fly Dance ※２	うさぎ・ことり・りすを登場させ英語でそれぞれの名前と好きなことを紹介する。子どもたちに「stand up! た～てや ほい！」「一緒にやってみてね」と声をかけ，実際に動いてみる。「次はうさぎさんだよ！」などと途中で日本語の指示も出す。	
4	挨拶 Good bye		

※１　♪How's the weather?
How's the weather?　It's sunny
How's the weather?　It's sunny
How's the weather?　It's sunny
It's sunny today

※２　Rabbit　…Jump
Bird　…Fly
Squirrel　…Dance

・子どもの様子

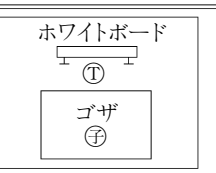
英語講師にも英語の雰囲気にも大分慣れてきた様子である。

新しく入った「How are you?」「I'm fine and you?」の言葉は，日本語での補足説明が入ったので子どもも理解した様子であった。しかし，今までの授業では英語講師の言葉を復唱するだけであったので「How are you?」という問いかけに対しても，オウム返しに「How are you?」と答える子どもが目立った。

「How's the weather?」の歌は身振りが簡単でかわいらしく，初めてではあったがスムーズに入っていけたようであった。

また，最後に登場した動物は年少３クラスの動物だったこともあり，子どもたちは興味を強く持ったようであった。実際に体を動かしながら発音することは初めてであったが生き生きと積極的に動き，「Stop!」の指示もよく聞き，理解しながら楽しむ様子が見られた。

第４回：平成12年12月７日（木）９：35～９：45　うさぎ組
９：50～10：00　ことり組
10：05～10：15　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning How are you?	「I'm fine and you?」という言葉がなかなか出てこないが，指摘せずに子ども役の講師は大きな声で正しい答えを言う。	
2	天気 sunny cool ♪How's the weather?	「How's the weather today?」「It's sunny!」とやりとりを行う。そして「It's so cool!」と身振りも交えて伝える。	
3	物語 「Let's look for the present for Christmas」	要所要所で日本語説明を入れながら子どもたちに問いかけていく。	
4	歌 ♪We wish you a Merry Christmas　※１	クリスマスにちなんでという形で数回耳慣れ程度に歌う。「みんなも一緒に歌ってみてね！」と子どもにも促す。	
5	挨拶 Good bye		

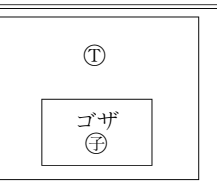
※１　♪We wish you a Merry Christmas
We wish you a Merry Christmas
We wish you a Merry Christmas
We wish you a Merry Christmas
And a happy new year!

・子どもの様子

年内最後の授業は参観日でもあったので，多少普段と違った雰囲気の中での授業となった。毎回繰り返している，挨拶･天気は大分子どもたちにも浸透しつつある。間違い（ex:“How are you?”のオウム返し）を日本語での訂正で覚えるのではなく，雰囲気で感じとって欲しいとの英語講師の意図を受けて，保育者も間違いの指摘はせずに普段の保育でも繰り返し取り入れるようにしている。

物語はかわいらしい絵カードで興味は持てたが，内容が難しく途中飽きてしまう子どももいた。特に新しいものは単純明快な内容が好ましいと感じた。

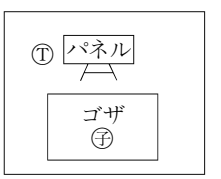
第５回平成13年１月11日（木）　９：35～９：45　ことり組
　　９：50～10：00　りす組
　　10：00～10：10　うさぎ組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Hello Good morning Bye See you	「元気だったかな？」などと日本語も交えながら笑顔で入室。ひとつひとつ挨拶の確認をゆっくり行う。	
2	天気 ♪How’s the weather? Snowy	新しく“snowy”を紹介。ゆっくり歌ってみる。	
3	運動的な遊び Bird…Fly Rabbit…Jump Squirrel…Dance	「Birdの好きなものは何だったかな？」と一つひとつ時間をかけて確認しアクセントを付けながら動いてみる。	
4	挨拶 Good bye		

・子どもの様子

年明け初の授業であり，前回の授業から１ヶ月以上空いたが子どもたちはすぐにペースを取り戻したようであった。内容も２学期からの復習であったので，どの子も自信を持って楽しく参加することができた。

第６回：平成13年２月１日（木）９：35～９：45　りす組
９：50～10：00　うさぎ組
10：05～10：15　ことり組

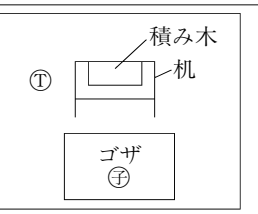
	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning How are you?		
2	パネルシアター 「はらぺこおおかみと なかよしこやぎ」 ※１	「Once upon a time…」と昔話の始まりのような雰囲気を作り，子どもを集中させる。 ディズニー“三匹のこぶた”の“おおかみなんてこわくない”の歌を英語で歌い，子どもたちにも「一緒に歌ってね！」と声をかける。所々でジェスチャー・セリフを子どもと一緒にゆっくりやってみる。 Ex．Cut! Cut! Cut!	
3	挨拶 Good bye		

※１　２／17，２／18の子ども劇場で年少組が発表する“はらぺこおおかみとなかよしこやぎ”のパネルシアターを英語で演じていただいた。

・子どもの様子

今回は，お楽しみのような形で「はらぺこおおかみとなかよしこやぎ」のパネルシアターを見せてもらった。子ども劇場に向けて，普段の保育の中で何度も登場しているキャラクターなので，子どもたちも親しみを持って，「あっ！白ヤギちゃんだー！」などと喜んでいた。慣れ親しんだ日本語での表現と異なる部分があっても，子どもたちはお話の世界に入りこんで抵抗感なく楽しむことができた。

第７回：平成13年２月22日（木）９：35～９：45　うさぎ組
９：50～10：00　ことり組
10：05～10：15　りす組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning How are you?	２名の講師それぞれが順に挨拶する。	
2	天気 ♪How's the weather		
3	大型絵本 The Rabbit & the turnip ※１	Rabbit,Donkey,Sheepそれぞれの特徴・好きな食べ物をわかりやく紹介。	
4	挨拶 Good bye		

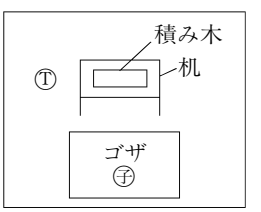
※１　登場人物：特徴（鳴き声）－好きな食べ物
Rabbit : Jump-Turnip
Donkey : Ah hee-Potato
Sheep : Baa baa-Cabbage

・子どもの様子

挨拶・天気はほとんどの子どもに浸透し，“How are you?”“I'm fine and you?”のやりとりも理解できてきたように思う。

初めての大型絵本は子どもたちも大変興味を持ったようで，３匹の登場人物・それぞれの鳴き声・話の展開を理解しながら聞き入る様子が見られた。普段から絵本・紙芝居が大好きな子どもたちであるが，言葉が違うことでさらに興味・関心も深まるようである。

第８回：平成13年３月８日（木）　９：35～９：45　ことり組
９：50～10：00　りす組
10：05～10：15　うさぎ組

	授業内容	英語講師の働きかけ	環境設定
1	挨拶 Good morning How are you?		
2	天気 ♪How's the weather	「今日の天気は？」と問いかけ，一緒に歌うよう声をかける。	
3	運動的な遊び Jump Fly Dance	「Stand up!」と声をかけ，指示を出していく。	
4	Book Reading（大型絵本） 「The Best Birthday Mole Ever Had」 登場：もぐら，てんとうむし，へび，うさぎ，きつね，ロバ	わかりやすい「OK」「Here you are」の２つの言葉は繰り返し入れた。 ※所々で子どもたちに問いかけ，意見を聞きながら進めていく。 「みんなで歌ってあげよう！」と声をかける。	
5	挨拶 “Good bye”		

・子どもの様子

挨拶，天気など毎回行っているものに関しては，自信を持って大きな声が出せるようになってきた。「How are you?」という問いかけに対して，オウム返ししてしまう子どももまだいるが，雰囲気を感じとりながら，少しずつ理解してきているように思われる。

運動遊びは，どの子どもも大好きで指示をよく聞いて，楽しく参加する様子が見られた。集中力が切れてきた時にも有効である。

絵本は，話がゆっくり進んでいくことで子どもたちは，じっくり絵を見て話の展開を理解しているようであった。英語講師からの質問を受けて，子どもたちは積極的に発言し，考えることで，お話の世界に集中する様子が見られた。

平成12年度全８回の授業を終えて…

今年度は昨年度の倍にあたる，８回の授業を試みた。第１回の授業開始は昨年度より１ヶ月以上早かったが，無理なく自然な形で保育の中に組み入れることができた。その理由の一つに，担任も授業の中で日本語での補足説明をしたり，子どもと同じ立場で発言したことが挙げられると思う。これは事前の英語研修において，担当英語講師から提案があり，各クラスで担任が意識して行ったことである。特に初めの数回は，慣れない雰囲気・講師に子どもたちも度々クラス担任の存在を確認し，担任の発言する姿や笑顔を見て安心する様子が見られた。

授業を重ねるごとに子どもたちの表情も良くなり，英語そして英語講師に慣れていく様子が見られた。しかし，場合によっては授業と授業の間隔が１ヶ月近く空いてしまうことがあり，１ヶ月の中で「１週目と３週目」というように英語ができたら…と残念に感じることがあった。年少組は子どもたち全員が理解し，楽しんで参加できる授業内容が適していると思われるので，今年度は授業内容，そして８回という授業回数も無理・負担がなかった。

年少時，計８回の英語の授業を経験した子どもたちは，“英語＝楽しい”と意識し，英語講師への親しみも感じて年中組になることができた。年中組での英語の授業にもスムーズに入ることができ，毎回楽しみにする様子が見られる。子どもたちの様子を見ていると年少時の８回の授業は，年中組へ向けて良い影響を与えたと考えられる。

（宮城　紀子）

４．保育に連動した英語教育の取り組み

⑴日常保育に即した授業展開の工夫

これまで，より良い英語教育に向けて様々な取り組みが行われてきた。その一つとして，英語教育が幼稚園生活の中で，他の活動と全く関連のない突出したものとならないような工夫がなされてきた。ここでは，英語の時間と保育を連携させるために行った，具体的な工夫や手段を報告する。

①平成12年度年長組

平成12年度年長組の在籍数は以下の通りである。

		あお組	みどり組	合計
園児数		30	30	60
保育者数	担任	1	1	3
	学年付	1		

【授業時間】
毎週月曜日
前半クラス　10：40〜11：00
後半クラス　11：05〜11：25

年長組１学期は，年中時の２クラスが混合され，新しいクラス編成になる。また，担任は３人のうち２人が新任保育者に代わった。

「英語の時間」も担当の英語講師が代わり，時間は年中時より５分延長され，約20分間行われるようになった。子どもたちにとって，「英語の時間」は年中時から慣れ親しんでいたことから，多少の自信がうかがわれた。新入園児２名は周囲を見回しながらも，不安な様子を見せることなく参加した。

しかし，新しい英語講師や新しいクラスの雰囲気の中で，落ち着いて参加することができな

い子どもや，年中時とプログラムが変わり多少高度になったことから，理解できないことはやりたくないと主張してくる子どもがいた。子どもたちが英語の時間を負担に感じてしまうのでは，早期英語教育の意味を成さない。そこで，英語の音に親しみ，楽しい時間を持てるよう，保育者と英語講師は様々な意見を交換をし，今年度は次のことを行った。

・保育者が子どもの前に立つ

前年度までは，２人の英語講師が子どもたちの前に立って英語の時間を進めていた。一人がプログラムを進行していき，もう一人は補助的立場である。

今年度の英語講師は一人となり，学年付の保育者が英語講師の補助として子どもの前に立って進めることになった。このことは今までにない画期的な試みであり，子どもたちの意識の変化に繋がったと思われる。内容は４－⑵で詳しく述べることとする。

・英語講師が保育に参加する

子どもたちは，毎日成長し，毎日変化している。一人ひとり性格や特性が違うのはもちろんのこと，その日の登園前の状況，心身の状態，遊びの時間の過ごし方，友達関係などの環境によって様子が変わるものである。保育者は，毎日の保育や親との関係を通して把握し，子どもたちの状況に合わせて対応している。それによって，時には活動内容を変更することもある。

しかし，英語の時間は１週間に１日の上，わずか20分である。そのわずかな時間だけの関わりでは，子どもの状況を把握しきれない。英語講師は，英語の時間をより充実して進めていくためには，子どもの日頃の様子やその日の状況を知る必要があるのではないかと考えた。そこで早速，時間の許す限り普段の保育に参加し，園庭でままごとや虫探しをしたり，クラスの集団遊びに加わったり，絵本を読んだり，子どもたちと一緒になって遊んだ。また，給食も子どもたちと同じ席で食べることができた。子どもたちは英語講師に親近感を抱くようになり，大変喜んで迎えるようになった。英語講師も子どもたちの会話や発言を間近で聞くことができ，新しい一面を発見されたようである。そして，虫を題材にした絵本を読んだり，ジャガイモの苗を持ってきて植えるなど，子どもたちが興味を持っていることを積極的に英語の時間に取り入れた。それらによって，英語の時間が子どもたちにとってそれまで以上に楽しいものとなっていった。

・英語のプログラムを検討する

英語の年間カリキュラムは英語講師によって検討し，決められる。それらは，子どもたちの年齢に適したもの，年中・長２年間を見据えたうえでのもの，また，昨年度の反省や，新しい試みが加えられている。各学年の保育者にも年間カリキュラムが伝えられ，研修会において事前に説明が行われる。

今年度も例年同様，実際に保育者が子どもの視点に立って英語の時間を受け，連絡ファイル

を通して，改善点を英語講師と相談しあった。しかし，今年度は実際に行ってみると子どもの反応や興味は予想と違うことが多く，また，年長の保育者３人のうち２人が新任であることから，例年以上に細かく保育者同士，また英語講師とも話し合った。そして，子どもたちにより理解される方法や，プログラムの内容・進め方，補助の入り方などを具体的に検討し，変更を重ねた。

また，２学期からは，英語の時間終了後，後半クラスの担任が英語講師とその日の授業の良かった点，改善点などを話し合う時間を設け，共通見解を持つようにした。

事例）10月“Treasure Hunting”

年長組では，運動会のリズムに「ピーターパン」の曲を用いた。保育者は，テーマに選んだ「ネバーランド」を，保育と英語の時間を関連づける題材にできないかと考え，ネバーランドを宝島にして，子どもたちが大好きな「宝探し」を英語で行ってはどうかと，英語講師に提案した。“Treasure Hunting”はこのような流れの中でできたプログラムである。子どもたちが興味を持ちそうな具体例を保育者が伝え，英語講師によって具体的な構想が練られた。宝の地図はホワイトボードいっぱいの大きさに描かれ，はっきりとした色使いで目を引く出来であった。

内容は，船を漕いで島へ宝を探しに行くが，川を泳いで対岸に渡ったり，山を越えたり，橋を渡ったり，湖のぴょんぴょこ岩を飛んだり，火山の周りを走って，それぞれの場所で動物たちを探し，見つける。課題をクリアしていくと宝物を獲得することができるというものである。川・山・橋・森・湖・火山６つのポイントで，それぞれの場所の名前と必要な動作の英語を学ぶ。

Ⅰ）１回につき５人ずつ「勇者」が選ばれる。選ばれた子どもは英語講師に“Ring Please”と言い，勇者のリングをもらい，胸につける。

Ⅱ）勇者が保育室内に隠された動物の絵を探している間，大きな声で♪Row,row,row　your boat を歌う。

Ⅲ）勇者が見つけたカードの中に正解のカードがあれば，そのポイントを通過することができる。

“Treasure Hunting”は全員が勇者として選ばれる12月まで行われた。

このプログラムを始めると，子どもたちは目をきらきらと輝かせ，集中して，積極的に英語の時間に参加するようになった。このテーマが子どもたちの興味に合っていたことと，わかりやすい内容だったため，子どもたちは英語に対する緊張や不安を感じることなく楽しんで参加できた。

これをきっかけに，英語講師の言葉を理解しようと，集中して話を聞こうとする姿が見られるようになり，その後も子どもたちが英語の時間を楽しみにするようになった。

１学期は新しいクラス編成・新しい保育者のもとクラスをまとめ，英語の時間をどのように

盛り上げていくかに重点を置いて見てきた。２学期からは英語講師と保育者が密に話し合い，英語の時間と保育の連携をとることによって，子どもたちの英語に対する意識にも変化が見られたと思われる。

（武笠　亜紀・小島　加奈惠）

②平成12年度年中組

平成12年度年中組の在籍数は以下の通りである。

		きりん組	ひつじ組	合計
園児数		32	32	64
保育者数	担任	1	1	3
	学年付	1		

【授業時間】
毎週月曜日
前半クラス　9：50〜10：05
後半クラス　10：10〜10：25

・ハロウィーンパーティーまでの経過

４月に，１年間の授業をどう行っていくか，何を取り入れていくか，英語講師と新年中組の保育者が話し合いを行った。平成11年度の年少組で，子ども劇場の内容を英語の授業に取り入れた試みを経て，平成12年度にはさらに，普段の保育の授業のつながりを持たせるために様々な意見が出された。

その中で，毎年組み込まれている「ハロウィーン」に注目した。

例年は，英語の時間にハロウィーンに関した内容を行い，保育の中では，かぼちゃの製作物を作るなどして雰囲気を味わう程度のものであった。本年は，保育の中でもハロウィーンの由来や内容に触れ，英語の時間を並行して行うことをした。

10月30日（月）の授業に向け，２週間前から各クラスで子どもたちにハロウィーンについて次のような導入を行った。10月31日にアメリカなど，外国ではハロウィーンという行事があること，飾られているかぼちゃを“Jack-o'-lantern”ということ，様々なお化けなどに変装をし，“Trick or Treat”という合言葉でおかしをもらいに家々を訪ねることを話した。由来や行事の内容は，子どもたちにとっては難しいようだったが，真剣に話を聞き，おかしをもらうことを知ると驚きの表情を見せた。そして年中組でも，ハロウィーンを英語の授業で行うことを話し，ジャク・オ・ランタンと輪飾りを皆で折り紙で作り，飾ろうと提案した。その日から子どもたちはハロウィーンパーティーを楽しみに飾り付けやお化けのお面を作り始め，徐々に盛り上がりを見せていった。

・前日の活動

ハロウィーンパーティー前日の活動として，27日(金)に１グループにつき１袋のおかしをもらいに職員室の園長のところに行くことにした。１グループ(生活グループ)，５～６人全員が“Trick or Treat”と言えると“Happy Halloween”の言葉と一緒におかしを手にすることができた。子どもたちはそわそわしながらもグループ全員が力を合わせ，12グループすべてが目標を達成することができた。

・当日の授業

いよいよ当日，登園すると子どもたちはハロウィーンパーティーのための飾り付けと，ケーキ作り(市販のロールケーキに生クリームをのせ，チョコスプレーをかける)，テーブルのセットを片方の保育室で行った。そして，もう一方の保育室で，20分間の両クラス合同の授業を行った。通常は15分ずつの授業を隔週で前半後半を交代で行っている。英語講師は witch や sister に変装し，いつもと違った雰囲気の中授業が行われた。毎回欠かさず行っている「挨拶」「天気」を行い，ハロウィーンの由来や物語を子どもたちに話していった。英語講師が持ってきたくり抜いたかぼちゃに火を灯し，これがジャック・オ・ランタンというものだと見せた。火を灯したジャック・オ・ランタンを見た子どもたちは歓声をあげ，興味深そうに見ていた。“Trick or Treat”という言葉を英語講師の発音で覚え，20分間の授業は終了した。

・パーティー

隣の保育室へ移動した子どもたちは手を洗い，英語講師のところへ行き，一人ずつ“Trick or Treat”の合言葉を言い，あめを１個受け取り席に着いた。グループでおかしを取りに行った時とは違い，今回は英語講師と一対一の会話であった。自分が言葉を発しない限りあめはもらうことができない。はずかしそうにしている子や緊張の表情を見せていた子も，あめを手にして帰ってきた時の表情は喜びでいっぱいだった。そして参加した園児全員が自分なりの声の大きさ，耳から覚えた言葉であめを得ることができた。

今回この日に向け，２週間前から子どもたちと一緒に準備をしてきた。日常の保育の中で取り入れ，当日の授業に向けて繋げていったことにより，子どもたちの「物語」「変装」「装飾」に対しての反応，あめをもらうことへの期待感，ハロウィーンという行事に対しての盛り上がりが例年と大きく変わっていたのではないかと思える。自ら参加し，楽しんでいる様子が強く感じられた。

（大勝　　愛）

⑵新たな保育者参加型の授業を目指して

①年長組の展開

・平成12年４月～平成13年３月

例年，年長組の英語の授業では，年長組担当の英語講師，アレン玉井光江先生（以下の文章ではアレン先生と記す）がプログラムを進行していき，もう一人の英語講師が補助的立場として子どもたちの前に立って授業が行われてきた。平成12年度の授業では，アレン先生と共に，年長組２クラスをフリーの立場で関わる学年付教諭である私が子どもたちの前に立つという形式の授業を試みることにした。これは，園生活の中で親しみを持っている保育者が前に立つことで，子どもたちがより英語に興味を持つのではないか，という見解からである。

新学期になり実際に私が前に立って授業を開始したが，事前の英語講師との打ち合わせだけでは，補助的立場として私がどのように授業に参加すればいいのかということが具体的にイメージできず，不安を抱きながらの授業開始となった。これは私が新任保育者であり，それまでは前年度の研修時に英語の授業へ２，３回参加しただけだったことも不安の一因であった。アレン先生が授業をどのように進めようと考えているのか，私は補助的立場としてどのような動きを求められているのか，進行するプログラムでは子どもたちのどのような反応が期待されているのか，私が様々な疑問や不安を抱きながらであるのと同様に，アレン先生にとっても英語講師ではない保育者と授業を進行するのは初めての試みであり，お互いに手探り状態での授業が行われた。このため実際の私の動きとしては，子どもたちと一緒にアレン先生の指示を聞き，子どもと同じ立場で参加し，結果として見本を子どもたちの前で示すという形だった。１日に２クラスの授業に続けて参加するため，後の授業では前の授業を踏まえて動くことができた。そのため，２クラス目では子どもと共に参加しながらも表情や動作をオーバーにして子どもの興味を引くなどを試みて，少しずつ前に立つことへの緊張をほぐしていった。

両クラスの授業に参加していると，同じプログラムに対し，両クラス同じ反応が見られたり，また全く違う反応だったり，クラスの状態やプログラムの内容によって様々な反応が見られる。毎回，両クラスに参加する私と各クラスの担任の３人で授業について話し合いを行ったが，そこで，プログラムの内容を少し簡単にすることで子どもたちはより意欲的に楽しむのではないかという考えがあがった。このことは，すぐに保育者の英語研修の時間に英語講師に伝えることになった。今回は，保育者がプログラムに対して感じたことを英語講師に伝えることが，かなり早い段階で行われたと思われる。これは授業の内容に対しては受け身であった保育者が，私のように一人の保育者が前に立って授業をすることで，内容に対する意見を持ちやすくなり，また，毎回授業の前後で保育者と英語講師が会話をする機会を必ず持つようにしたことで，保育者と英語講師の間で思いを伝えやすい関係がスムーズに作られたためだと考える。話し合いでは，さらに，子どもたちの理解を高め，意欲をより盛り上げるために日本語の使用を増やすことになった。これによって，私の授業での発言もしやすくなった。今まで２人の英語講師が授業を進めているときに，英語中心の進行であったため，私も子どもたちに英語で働きかける

べきではないかと考えていた。そのために自然と発言を躊躇してしまう場面が多かった。しかし今回のことで，授業中でも子どもたちに日本語でいつものように声をかけることができるようになった。このことに加え，私が回数を重ねることで少しずつ慣れてきたこと，また毎週繰り返す「ABC Song」「How's the weather?」のプログラムを通してアレン先生の進行が予測できるようになったことにより，私の働きかけが少しずつ変化していくようになった。子どもと一緒に参加し，共に笑ったり，驚いたりするだけではなく，「この前と同じだね，覚えてる?」「今日は何色かな？」と子どもの意識を引こうとしたり，「先生に負けないようにね！」「難しそうだね。がんばろう！」と，子どもたちの意欲が高まることを期待して声をかけたりと，発言が増えていった。また，子どもの様子を見て，十分に理解できていないのではないか，と感じた時には，私が日本語で補足説明することもあった。その際，英語にとらわれない自然な表現が子どもたちにスムーズに入り込んでいったのではないか，という英語講師側からの見解もあった。

また，授業中でも普段の保育の延長として，表情やジェスチャーだけでこちらの意図を伝える，しっかりと言葉で注意を促す，緊張でこわばる子どもの気分を笑顔や態度で和らげるなど，その場の状況や子どもによって対応を判断することができた。これは，週に１日子どもと接する英語講師だけでなく，日頃から接している保育者が子どもたちの前に立って向かい合うことによってできたことだった。また子どもたちの背後で見守る担任よりも早くトラブルに対応できることもあった。そして，英語に苦手意識を持っている子が意欲的に取り組んでいる時に「すごいね。」と声をかけたり，一斉に話を聞くのが苦手な子が話をきちんと理解して反応している時に「かっこいい。」と声をかけたり，子どもたちをクラス全体の中で認めていく機会を英語の授業中に持つことも可能となった。

このような授業を進めていく中で，プログラムに対する提案も保育者側から持ち上がるようになった。歌のスピード，名札の大文字への作り直し，レッスンの始まり方，レッスンの長さなどの細かな提案や，本を読むのが大好きで特に虫に興味を持つだろう，という具体的な提案をしていった。また２学期に向けての話し合いでは，宝探しなどをゲーム感覚で楽しめたら子どもたちは夢中になるのではないかという私たちの提案をもとに，英語講師が今までにない新しいプログラムを考案し実際に取り入れるということも実現した。さらに３学期に向けての話し合いでは，子どもたちが気に入って普段の遊びで英語の歌を口ずさんでいる様子を伝え，子ども劇場では予定よりも難しい歌を披露することができた。

今回の保育者が子どもたちの前に立って授業に参加するという試みは，子どもたちがより取り組みやすいものを作り出すことを目的とする話し合いが，英語講師と保育者との間で多く持たれることに繋がった。このような関係は今後も続け，よりよい授業に繋げていきたいと考える。

・平成13年４月～平成14年３月

平成13年度の年長組は，学年付教諭ではなく各クラスの担任が補助の立場で授業に参加することになった。年長組担任となった私は，受け持ちのクラスでアレン先生と共に授業を進行している。昨年度は２クラスに続けて参加することで前の授業が後の授業で生かされたが，今年度は各担任がそれぞれの授業に参加するため，新たな対策をとることにした。先に授業を受ける場合，授業前にアレン先生とその日のプログラムについて打ち合わせをする時間を持ち，後の授業の場合は，先のクラスの様子を見学している。その間の自分のクラスの子どもたちは学年付教諭に担当してもらう。昨年度は両クラスに参加することで，２クラス目ではその日のプログラムに慣れて進行できるという利点があった。今年度は一方のクラスを見学することで授業を客観的に見て子どもたちの反応を感じることができ，自分のクラスではそれを踏まえた補足説明をするなどの対応をとることができている。　もう一つの新たな試みとしては，昨年度までは各保育室で授業が行われてきたが，今年度は「みくるルーム」（多目的保育室）で授業を行うことにした。これは，子どもたちが担任のもとに集まっているところに英語講師が入ってくるよりも，子どもたちが英語講師の待つ部屋に入って行く方が，子どもも授業に向けての気持ちを持ちやすいのではないか，という見解からである。「みくるルーム」の出入り口は，子どもたちが各々アレン先生と英語で挨拶を交わしながら入退室している。“Hello”“Good Morning”“Bye”“See You”など，アレン先生とハイタッチなどで触れ合いながら子どもたちなりに挨拶を実践している。入室後着席した子どもたちからは，授業に参加する気持ちが感じられ，その日のプログラムに期待している様子も見られる。

また昨年度は，英語の時間には学年付教諭の私が前に立つということが子どもたちの間でも自然と受け止められていたが，今年度担任として同じ場に立ってみると，やはり担任に比べて子どもたちの前に立つことが少ない学年付よりも，子どもの前にいることが常である担任の方が，より自然と子どもたちに受け入れられていると感じた。また私も，特に様子を気にかけたい子ども，授業中に認める機会を持ちたい子どもなど，担任として，学年付の頃よりもより細かな具体的な対応を意識できるようになった。さらに保育中に常に子どもの前に立つことで，英語の歌やゲームを保育でも取り上げる機会をより多く持つこともできる。今年度の新たな活動として，授業中のプログラムを反復するだけでなく，授業の活動を引き続き保育で発展させている。授業で登場したキャラクターをその後の保育で自由に絵に描く時間を持ち，その作品をまた英語の授業で使って楽しんでいく。これは１回20分の授業の中だけでは取り入れるのは大変難しい活動であるが，保育との連動によって活動が広がった。また子どもたちの作品が授業に登場することで，今後の子どもたちの英語への興味や意欲にも繋がると予想される。

このように保育者と英語講師との連携が深まることによって生まれていく試みが，今後も子どもたちが英語に親しみを持つ助けとなり，また英語の活動と普段の保育の活動が相互に広がり合う要素になっていくことがさらに期待される。

（大歳　幸子）

②年中組の展開

前項で述べたように，平成12年度の新しい試みは，今後の英語教育の指針となるべく良い結果が得られた。このことを踏まえ，平成13年度は英語講師の提案により，年中組でも保育者が補助の立場で子どもたちの前に立ち授業に参加していく形式を取ることにした。これは試みではなく，平成12年度の年中組の経験を生かし，年間を通じて授業のスタイルを作り出していこうとするものである。英語講師である上野めぐみ先生と年中組担当保育者の間でディスカッションが行われた結果，当面の授業は学年付き教諭である自分が担当することになった。英語教育導入時期の変遷でも述べたが，年中組の１学期は進級時にクラス替えが行われ，担任保育者も代わるためクラス内が落ち着かない状態である。幸いにして自分は年少組から「持ち上がり」で現学年を担当しているため，ほとんどの子どもたちと面識があり自然な雰囲気の中授業に入っていけるのではないかとの見解になった。

・１学期の様子

英語講師より，授業の前に詳細を打ち合わせして補う言葉を決めるのではなく，保育者として場に応じて自然に発語してほしいとの意見が伝えられた。最初は自分の言葉が授業のさまたげになったり，英語講師の意に反する方向性を持ってしまったら，との不安を感じ緊張感が強かった。しかし第１回目の授業から，年中組の２クラス共に英語の授業に対して多くの子どもが意欲的であり，個々の表情から楽しんでいることが伝わってきたため，自分自身も少しずつリラックスすることができた。また子どもたちが英語講師だけでなく，補助である自分にも視線を向け一生懸命発音する姿が見られ，自分が子どもたちの前に立っている必要性も少しずつ感じていくことができた。当然のことながら，２クラスそれぞれに園児全員が欠けることなく授業に集中できるわけではなく，時々あきてしまったり，私語や席を離れる様子も見られる。しかしその際も子どもたちの日常の様子を頭に置きながら注意をしたり，言葉で補うことができたため，不自然な状態にならず授業が進行できたと思われる。英語の授業を補助していくうえで自分の中で意識的にしていることは，子どもたちに「英語の訳」を聞かせるのではなく，むしろ子どもたちのリーダー役を務めることである。つまり歌を歌う時，発音する時など常に自分も大きな声で言ったりする，また，T.P.R（動作する）の際にもオーバーアクションで先導するなどである。そのことにより子どもたちも安心して発音したり，動作をしやすいのではないかと感じている。

・今後に向けて

子どもたちが英語の授業に慣れてきた６月後半には，年中組も「みくるルーム」（多目的保育室）に移動して授業を行った。通常の保育室を離れ，どのくらい集中して臨めるかとの不安もあったが，２学期からも引き続きこの形式を続けていきたい。また２学期は子どもたちの様子を見て学級担任が補助できるよう徐々に移行していきたいと考える。

（益田　薫子）

5．考　察

今回の紀要は，「より良い英語教育に向けての取り組み」の中で保育者の研修会と英語の授業の新しい展開方法についてまとめを行ったものである。

平成９年度に園内研究テーマを「英語」とし，継続研究を続け，４年半の歳月が流れた。本園の英語教育は40年以上と長い歴史を持っているが，本来の保育の領域外である「英語教育」について，これほどまで保育者が意識的に取り組んだことはこれまでなかったのではないかと思われる。

「英語」は，保育者たちの学生時代の経験からも，学校教育の中で「教科」として始めるのではなく，小さいうちから自然に耳にしながら身に付けていくのが望ましいと考えている者が多かった。しかしながら，実際には限られた保育時間の中で，子どもたちに経験してほしいと考える活動が他にも数多くあるため，英語教育に取り組むまでのゆとりもなかなか持てなかったのが現実である。このため，英語講師に一任した授業を進めてきたのが常であった。

「英語」の研究に取り組むようになった平成９年度からは，月１回の保育者研修が行われ，英語授業の内容について，勉強する機会を定期的に持てるようになった。これを契機に，保育者一人ひとりが英語講師の授業の意図を理解し，実際に子どもたちと一緒に授業に参加して英語の歌を歌ったり，ゲームをしてみることで，英語教育に対してより親しみを感じることができたのである。

当然ながら，「習う」という受け身だけでなく，授業について英語講師と話し合いを持つことで積極的に英語教育に取り組むことができ，内容もより良い方向に変化していったと考える。

平成９年度まで実施していなかった３歳児の英語教育導入についても，保護者の英語教育に対する意識が定着し，保育者がより前向きな気持ちを持てるようになったからこそ実現できたと考える。子どもたちと英語講師との顔合わせとの意味合いから２回しか行っていなかった授業を，翌年は４回，２年後には８回行うようになった。これについても，初年度に３歳児学級で定着させた授業形態を唐突に増やすのではなく，英語講師と保育者が子どもたちの様子を見ながら徐々に授業内容を変えて回数を増やしていったため，全く無理なく推移できたのではないかと考える。

今後，３歳児にどのように英語教育を行っていくべきか，また開始時期や回数についてはどのくらいが最適であるか，この３年間の試みにより，基本のスタイルが作れたと言えよう。

「英語」をテーマに３回目の紀要研究発表となったが，今回はその完結編であるとも言える。４年半の研究を通し，文京幼稚園における英語教育の取り組みは確実に成果を上げ，子どもたちがより自然に英語を親しめる良い機会になったと考える。加えて，英語教育は文京幼稚園の保育活動において必要なものと保育者自身が自然に受け止められるようになったと思う。

研究テーマとしての「英語」は本年度で終了となるが，今後も保育者の定期的な英語研修は引き続き行っていきたいと考える。そうすることが，より自然であり，英語教育の推進の一助になると考えるからである。

（益田　薫子）

おわりに

地球という星に住む生き物のなかでも，人類は生活の知恵と，その伝達の手段としてのことば（言語）の進歩は著しいものである。

そして，この子どもたちが担う21世紀は，命の尊厳・平和を保つために，お互いの国の歴史や生活環境を理解し，協力していかなければならない。

その国際交流を深めるためには，母国語を大切にしながらも，共通のことば（言語）の必要性も大きな課題となってきた。

本園の英語教育は，先達者の深い考えから，1950年代後半から取り入れられて，今も園児たちには外国語への関心と興味を持つ保育の活動となっている。

その英語教育をより充実するためには，正課の時間以外でも，英語に親しめるようにと，全教員がカリキュラム・教材など園内研究として，英語講師から指導を受けたものが，この研究のまとめにもなったものである。

３年間の継続には教員の移動もあり，一人ひとりの役割と，それをまとめることは，保育と園行事をやりこなしながらの責任感の結晶であり，指導くださったアレン玉井光江・上野めぐみ両先生に深く感謝申し上げます。